

平成26年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心身ともに健康で 意欲的に学ぶ子どもの育成ー						
重点目標		基礎基本の徹底と学力向上。一人ひとりの居場所がある学級集団づくり。社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底。健やかな心と健やかな体づくり。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	○基礎的、基本的な知識・技能を習得する ○学習指導の工夫・改善	・朝学習を計画的に実施することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・家庭学習の習慣化を図る。 ・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。	・学級での朝学習を日課とする。 ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。	B	・各学年で行っている朝学習について情報交換し、計画的に取り組んだ。 ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した5,6年生が92%、教職員が90%だった。保護者については85%を上回らなかった。 ・各学年の目安となる時間を示し、それに向けて家庭に協力を呼びかけながら取り組ませた。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した5,6年生は87%、保護者94%、教職員が86%だった。 ・夏季研修会等を活用しながら、児童につけたい力を共通理解し、みんなで学力向上プランの作成をすることができた。 ・つけたい力を意識した学習指導ができた。 ・目標と評価を一体化した授業作りをする。	・研究推進部と連携しながら、授業改善を図り、学習指導のあり方を見直す。 ・家庭学習の取り組みについては、今後も家庭と連携を取りながら充実させていく。	・家庭学習の定着には、意欲の向上と粘り強い取り組みが必要である。そのためには、課題を工夫し、しっかりと評価することが必要である。 ・学校図書館を充実し、子どもたちが読書好きになる様な環境作りが必要である。
	児童の個性を生かす教育活動	○互いを尊重し合える仲間づくり	・授業にペア学習やグループ学習を取り入れる。 ・算数の学習にジャンプの課題を取り入れる。 ・互いの良さを見つけ、互いに聴き合う仲間づくり。	・わからなさを共有し、対話していくことで問題解決を図る。 ・誰とでも関わり合い、認め合うことができる。	B	・ペア学習やグループ学習を授業に取り入れることができた。その内容が、話し合いではなく学び合いになることが課題である。 ・ジャンプの課題を意識して取り入れようとしたが、何がジャンプの課題かがわかりにくく、共通理解していく必要がある。 ・聴き合う仲間づくりができてきた。	・引き続き、聴き合い学び合う子をめざした研究に取り組んでいく。 ・個性を生かすために思考力、判断力、表現力の向上を重点目標に掲げて取り組んでいく。	・学校全体が落ち着いている。学校・学年での取り組みが、功を奏し、落ち着いた認め合う集団になっている。
	特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備 ○個別の指導計画の作成	・共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。	・特別支援教育のあり方や、様々な子どもの特性、ニーズについての研修を年間3回行う。 ・関係諸機関との連携をとりながら、クラス、学年、学校全体での支援体制を整える。	B	・一定の共通理解と体制作り。(インクルーシブ教育についての夏季研修会実施) ・特別支援学級での学期ごとの指導計画を評価した。 ・通常学級も6月・2月の研修会のレポートを重ね、指導計画と評価を実施した。	・特別支援教育支援員と各担任との連携強化 ・通常学級における個別の指導計画の改善 ・関係諸機関との連携・交流	概ね良好である。

## 平成26年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校

教育目標

命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心身ともに健康で 意欲的に学ぶ子どもの育成ー

重点目標

基礎基本の徹底と学力向上。一人ひとりの居場所がある学級集団づくり。社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底。健やかな心と健やかな体づくり。

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	問題行動への指導・対応	○児童理解のための研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で共通理解を図ると共に指導力の向上を目指す。</li> <li>「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。</li> <li>不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、生活指導部会を開き情報交換を行い、問題行動については組織的な対応を行う。</li> <li>年度初めと夏季、年度終わりに研修会を開く。</li> <li>いじめ対策委員会を月1回開く。</li> <li>児童アンケート「困ったときや悩んだときや不安なときに、相談できる先生がいる。」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>不登校傾向にある全ての家庭と連携しながら、関係機関につなぐ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の生活指導部会で、継続的に児童の情報交換を行うことができた。</li> <li>生活指導部会でいじめ対策委員会も併せて行うと共に学期に1度、「いじめアンケート」調査を実施した。</li> <li>児童アンケート「困ったときや悩んだときや不安なときに、相談できる先生がいる。」と回答する割合が75.8%であった。</li> <li>職員の児童理解と指導力向上のために、年度初めと夏季、年度終わりに研修会を開いた。</li> <li>不登校傾向にある児童について、家庭と連携しながら、関係機関につないでいった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で共通理解を図り、より組織的な体制づくりに努める。</li> <li>児童が困ったときや悩んだときに相談できるように、カウンセリングマインド研修を継続的に実施する。</li> <li>今後も関係機関につなぎながら不登校傾向にある全て家庭と連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の事情や子どもの性格をしっかり把握し、保護者と連携をして進めてほしい。</li> </ul>
	規範意識の向上	○生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活目標や生活のきまりを守れるように、日頃からの声かけや全校集会での話、掲示物を工夫する。</li> <li>様々な場面で生活のきまりを振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。</li> <li>学校教育活動全体を通じた道徳教育の実践を行う。</li> <li>副読本やルールブック等を活用して、道徳授業の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「子どもはあいさつなど基本的な生活習慣が身につけている」回答する割合が90%以上になる。</li> <li>児童アンケート「自分たちを大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する割合が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「子どもはあいさつなど基本的な生活習慣が身につけている」回答する割合が、89.4%であった。</li> <li>朝の会にルールブックを使い、道徳教育の実践を行ったが、まだ不足を感じる。</li> <li>道徳副読本を授業の中で活用し、道徳の授業の工夫ができた。</li> <li>児童アンケート「自分たちを大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する割合が93%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内の掲示や全校集会での話等工夫すると共に児童会とも連携して児童が自発的に生活のきまりを守れるようにする。</li> <li>全職員が、児童へ生活目標を守ることを指導できるように、引き続き話す機会を増やす。</li> <li>朝の会・帰りの会等におけるルールブックの活用を促していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の挨拶、入学式や卒業式などの儀式的行事での取り組みの姿勢、体育大会における集団行動などで子どもがしっかり行動出来ているのがわかる。落ち着いた学校生活が送られていることがうかがえる。</li> <li>学校行事の様子から、保護者の姿勢や協力体制も高まってきていることがわかる。</li> </ul>
	体力の向上	○体力づくり ○健康な身体・心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域における系統的な学年カリキュラムの整備を行う。</li> <li>児童の体力向上を図る、学校行事を企画し実施する。</li> <li>保健学習参観を中心としたカリキュラムに応じた保健学習の実施、「ほけんだより」を活用した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。</li> <li>懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育時数の確保ならびに、学年内の教材研究を深める。</li> <li>学校水泳では25m泳げる児童を増やす。(4年生以上が9割以上到達する)</li> <li>体育大会、ドッジボール大会、縄跳び週間などをきっかけに継続的な体力向上を目指す。</li> <li>睡眠、食事、身の回りの清潔等生活習慣の改善を図る。</li> <li>むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年内で授業研究、交流を深めることができ、講師を学期に1回呼び、校内研修会を実施し、授業の向上が見られた。</li> <li>学校水泳の到達目標達成は学年によりバラツキが見られた。25m泳げる児童が9割以上到達するにはわずかに届かなかった。</li> <li>さまざまな行事を通して外で元気よく遊ぶ姿がたくさん見られた。</li> <li>個人懇談での治療呼びかけで、治療率が少し改善したがまだ一度も受診歴がない子が3.5%いる。</li> <li>「すくすくチェック」を通して、朝ごはん摂取、睡眠時間の改善がみられ、生活習慣への意識化が図れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果から、本校の結果や児童の様子を分析し、体力向上プログラムの作成する</li> <li>体力向上プログラムからカリキュラムの編成を行い、備品の補充を行う</li> <li>生活習慣の改善を図るため、保健指導の充実と、「すくすくチェック」の継続等家庭教育と連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好である。</li> </ul>

平成26年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心身ともに健康で 意欲的に学ぶ子どもの育成ー						
重点目標		基礎基本の徹底と学力向上。一人ひとりの居場所がある学級集団づくり。社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底。健やかな心と健やかな体づくり。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	○ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開 ○参観授業の実施	・ホームページの更新をWebブラウザ上でできるようシステムを変更し、簡単にタイムリーな情報が発信できるようにする。 ・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会、講演会などで情報を発信する。	・各学年の活動の様子を月に2回を目安に更新する。 ・近日中の連絡や予定をホームページでも知らせる。 ・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参加者が増えるような魅力ある学級懇談会、講演会を工夫する。	B	・各学年が活動の様子を12月までに月平均約1.9回の更新できた。月間予定も更新し、近日中の予定もトップページにてお知らせした。 ・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施することができた。魅力ある学級懇談会、講演会を工夫したが、参加者が少なかった。	・更新作業に関する研修会を行い、さらに多くの職員が更新作業に関わることができるようにする。 ・記録をとり、学級懇談会、講演会の参加人数を把握する。 ・職員間で内容の情報交換し、さらに魅力ある学級懇談会を工夫する。	・体育大会における保護者の見学のマナーが素晴らしかった。PTAとの連携・協力がよく図られていた。
	危機管理体制・教育環境の整備	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施 ○学校教育環境充実のための取り組み	・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。 ・防犯訓練の実施と、防犯設備の充実。 ・定期的な安全点検や、登下校指導。 ・交通安全教室の実施。 ・事故防止の連絡、啓発の促進。 ・清掃用具の点検・充実。 ・委員会活動との連携。 ・職員作業として、周辺環境の整備。	・年3回の避難訓練、年1回の防犯訓練を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身に付ける。 ・トランシーバー研修を行い、職員の、緊急時の連絡方法について理解を深める。 ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。引継ぎノートを活用し、課題のある登下校路について、継続的に指導する。 ・学校周辺の事故の連絡などを行い、危機意識を高める。 ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う。	B	・年3回の避難訓練、年1回の防犯訓練など、緊急時の適切な対応を念頭においた訓練を計画、実施することができたが、職員の動きが計画通り徹底できなかった場面が見られた。 ・不審者対応避難訓練、保護者同伴下校訓練などで、緊急時のトランシーバーの活用が効果的にできた。 ・年16回の登校指導、年10回の下校指導の引継ぎノートを活用し、注意事項や指導ポイントについて次の担当学年に伝えることができた。 ・学校周辺及び県内の事故などの連絡から、職員の危機意識の啓発に努めることができた。 ・放送設備を改善する必要がある。 ・委員会活動と連携し清掃用具の修理をすることができた。 ・夏休みに職員作業として学校周辺の清掃・整備ができた。	・訓練の、昨年度からの変更点については、部会・全体の双方から、細かくアナウンスし、担当者に周知徹底していく。 ・児童、保護者へ、長期休業前の安全指導、及び緊急時の対応についての説明の徹底。 ・登校指導の引継ぎノート活用について、年度初めに教職員に一層周知させ、課題のある登下校路についての共通理解を深める必要がある。 ・清掃用具の修理や学校周辺の清掃、整備を継続して行う。	・地域と連携した防災訓練の実施を検討してほしい。
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	○授業の質を高める授業研究	・校内研修として、全教員が年2回授業を公開する。 ・授業の質を高めるための教材研究や研修、研究を充実させる。 ・算数の学習で、ジャンプの課題に取り組む。	・全教員が年2回授業を公開する。 ・授業を公開する営みの中で、事前の教材研究や事後の振り返りから、自分の力となる気づきをもらう。 ・ジャンプの課題を意識しながら、学年で教材研究をしていく。(個人提案は算数で)	B	・年2回の授業公開は、ほぼ達成できた。できるだけ3学期に重ならないようにすることが課題である。 ・学団では、教材研究に取り組めたが、個人提案の教材研究をどう深めていくかが課題である。 ・ジャンプの課題を意識していたが、十分な共通理解ができていなかった。	・先進校視察や事後研究会の持ち方の工夫により、授業の質を高めたい。 ・授業の板書を工夫し、学習の振り返りができるようにすることで、基礎基本の定着を図りたい。 ・教師が学びあう研修の工夫や教材研究に今後も取り組んでいきたい。	

平成26年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心身ともに健康で 意欲的に学ぶ子どもの育成ー					
重点目標		基礎基本の徹底と学力向上。一人ひとりの居場所がある学級集団づくり。社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底。健やかな心と健やかな体づくり。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	教育目標の設定	○全教職員の学校目標達成に向けた参画 ○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・学校教育目標に向けたPDC Aサイクルに基づいた教育活動を実施する。  ・学校教育目標に関するアンケート項目について、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上。 ・「学校が行くのが楽しい」と回答した児童及び、「学校へ行くのを楽しみにしている」と回答した保護者がいずれも85%以上。	A	・学校教育目標に関して、「あてはまる」と回答した教職員が87%だった。 ・学校教育目標に向け、全教職員で共通理解のもと、学校教育活動を実施することができた。 ・重点目標をさらに具体化しながら、全教職員で学校教育活動を実施する。 ・「学校へ行くのが楽しい」と回答した5,6年生は89%。「学校へ行くのを楽しみにしている」保護者は95%だったことから、児童の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。 ・児童が活躍する場面を意識的に作り、児童の自尊感情を高めることができた。	・教育課程部と研究推進部が連携し、児童の現状を踏まえた学校教育活動を実施する。	・目標が具体的に設定されているのがわかりやすい。
	校務分掌等の連携	○一人一役の校務分掌、職場の同僚性	・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。  ・「校務分掌上の一人一役など仕事の分担が適切で、教職員集団として適切に機能している」と回答した教職員が85%以上。	A	・「校務分掌上の一人一役など仕事の分担が適切で、教職員集団として適切に機能している」と回答した教職員が87%だった。 ・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実施することができた。 ・今後も、職場の同僚性を高めながら、組織として動いていく。	・これまで同様、常に情報交換し、互いに課題を共通理解しながら、組織的に学校教育活動を実施する。	・先生方が元気になるような取り組みを行うことが、子どもたちの成長につながる。

#### 学校関係者評価総括

・課題や評価の工夫による授業改善や学習の振り返り、学習意欲の向上と粘り強い取り組みなどにより、基礎基本の定着を図られた。また、学校図書館の充実など学校環境作りに努めてほしい。・教師が学びあう研修の工夫や教材研究、学校行事など、教師が元気になるような取り組みを行うことが、子どもたちの成長につながると考える。・登下校の挨拶、学校行事での取り組みなどから、学校全体が落ち着き、認め合う集団づくりができていくことがうかがえる。さらに、保護者と連携して児童理解を深め、児童の健全育成に努めてほしい。・保護者の姿勢や協力体制も高まり、PTAとの連携・協力がよく図られて来ている。今後も、さらに保護者・地域と連携して学校教育を推進してほしい。

#### 次年度に向けた重点的な改善点

- ①授業改善と児童への個に応じた取り組みを工夫し、基礎基本の定着を図る。また、効果のある学習環境作りに努める。
- ②教師の指導力の向上に努め、児童に対する情熱を持って学校教育活動を推進する。
- ③児童の規範意識と自尊感情を高め、認め合う集団づくりを進める。保護者と連携し、児童理解を深める。
- ④今後も、さらに保護者・地域と連携して学校教育を推進する。